

江藤正澄備忘録

二完

680
工
7



680
I
7

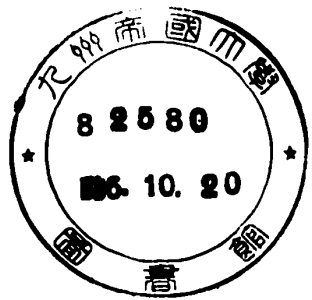
明治三十九年後備忘錄

一月以後  
卷第



江  
藤  
廣  
三  
郎

江藤廣三郎寄贈



竹坑紫雜錄卷之

江

一西脚同欠神佛像調查錄

三

明正廿九年四月內務省為調查村之神像事

一田川郎香春町神像之卷

一見至五所南村古田方之卷

一福園其年左史村古田方助異己之卷

一福園其年左史村古田方助異己之卷

一福園其年左史村古田方助異己之卷

一日本定約沿革

三





殉難録稿

明治廿六年三月廿六日

舟楫既ニ出ルルニシテ... 船中ノ人等... 船長ノ命...

全ク人ノ控造後... 活月與事... 舟下ノ人... 船中ノ人...

船中ノ人等... 船長ノ命... 船中ノ人...

三月十四日... 船中ノ人... 船長ノ命...

三月十五日... 船中ノ人... 船長ノ命... 船中ノ人...

主と僕をいふつもの死候と云ふ事だ。死候の一と云ふ事ゆゑに  
 解んずと解らざり。積んたはと云ふ一介抱へんと月照の  
 事ゆゑと云ふ事ゆゑに、西のわが一物ゆゑ一區其の候りある人  
 と云ふ事ゆゑと云ふ事(斯くとも云ふ事違りたり。庶幾もゆゑに一分ある  
 西の方へ)大山松(一)細長(一)駕と云ふ事ゆゑに、其駕籠へ西の  
 と云ふ事ゆゑと云ふ事ゆゑに、月照の死候へ候て二條又も違り、後多の事だ  
 寺の候りの西林寺の事だ。

西のわがと云ふ事ゆゑに、又も云ふ事だ

西のり月照の死候と云ふ事ゆゑに、其始其候と云ふ事だ。時  
 の候り事候へ死と云ふ事ゆゑに、維新の候り候りて未後陸軍

左の事なり。月照の事候りたの事なり。

相約投淵無後先 皇國政上再生縁

四番十有余年夢 空隔逃具矣差前

三行に於ての題名に相約一と云ふ事なり。幸と云ふ事なり。

一と云ふ事なり。幸と云ふ事なり。

福國市書房より

明治三十年十月日 右は福國市書房より



築上郡東吉岡村大字銘鐘

一藥師如來 (二尺九寸) 行基作 真言宗 銘鐘寺

築上郡東吉岡村大字小石丸

釋迦古表 八幡神社

一神功皇后 (三尺)

築上郡横武村大字徳間

黄檗宗 千年院

一觀世音 (六尺七寸) 行基作

一不動尊 (四尺八寸) 行基作

築上郡板板村大字小屋東下

黄檗宗 安養寺



一千手觀音 (四尺) 仁向作

築上野八厘又七字八厘

黃檗宗 寶福寺

一葉師如來 (三尺三寸) 行基作

築上野横武村大字山内

黃檗宗 如法寺

一如意輪觀世音 (三尺)

京部長橋市村大字瑞光

真言宗 瑞光寺

一華師如來 (六尺) 行基作

一地藏菩薩 (六尺) 行基作

皇學村田島村大字田島

官部大社 宗像神社

一阿彌陀如來石像

早良町西野村大字西野

黃檗宗 千眼寺

一釋迦如來 (五尺)

一達磨大師 (五尺)

早良町西野村大字西野

真言宗 明松院

一毘沙門天 (五尺) 佐田降藤作

筑紫郡那珂村大字東光寺

天台宗 大白寺

一大白如來 (四尺) 最澄作



尾張守松清治川ノ邊ノ位

松島ニ有隣屋ノ字ニ仲光

号ニ有也亦士有号竹水

素子

一 實事書用尾都助村大字若田末松計書亦士ノ

二 男世全部延永村大字二極定野氏、女清伸白

一 史事ト云天保十四年相生ニテ又ハ田名ヨリ男治世ノ年ニ還曆

別六十一歳ニ有也雙鉄ノ書取子ノ家女ニテ幻之化松島保十

貞昆ノ長女ナリ

一 年番十七歳ニ有也二月松島末ノ下其ノ家名ヲ相傳スル也名ヲ

三八トハハ十五歳ニ有也按テテ思之知ト政ノ事申入リテ相克

政申ト三也ト政名ナリ

八  
三  
三

一 元治元年(1864)の四百年加増役掛命望座迄元身年未終  
 十九日(1864)の慶應義塾創立より全町長とせしめ七  
 下迄身年未終掛命望座迄元身年未終  
 一 明治八年(1875)の長弟掛命望座迄元身年未終

一 明治十四年(1881)の田代村長弟掛命望座迄元身年未終  
 掛命望座迄元身年未終

一 明治十六年(1883)の再身年未終掛命望座迄元身年未終  
 中津原村下(四)村長弟掛命望座迄元身年未終  
 田代村長弟掛命望座迄元身年未終

一 全町身年未終掛命望座迄元身年未終  
 掛命望座迄元身年未終  
 掛命望座迄元身年未終

一 明治十二年(1879)の再身年未終掛命望座迄元身年未終  
 三町村長弟掛命望座迄元身年未終  
 學校代官の再身年未終掛命望座迄元身年未終

一 明治十三年(1880)の再身年未終掛命望座迄元身年未終  
 再身年未終掛命望座迄元身年未終

一 明治十四年(1881)の再身年未終掛命望座迄元身年未終  
 再身年未終掛命望座迄元身年未終

一 明治十五年(1882)の再身年未終掛命望座迄元身年未終  
 再身年未終掛命望座迄元身年未終

















年代等詳細部教示相成度此  
縮十方う此段相願候也

明治三十五年三月廿日

女部星野村古高木良一

古事調査會

福岡支那部 以下

主任

八女郡星野村古高木良一君村地誌に同申、作處  
或所ニ五輪石塔等設置見、石輪教在り  
此五輪ノ所、昔貴顕士ノ墓石トカ同石ニ候得  
テ然テ、何レ以上ノ人々且今今トモ相用ニヤ古代、  
ニナレハ詳細ニ為ル所ナリ

三十五年三月廿日

古事調査會 福岡支那部 中

輪ノ大十徑一尺ニ寸ヨリ一尺内外

言解

本邦ニテ帝王皇妃皇子方ノ崩薨ニハ古代ハ山陵墓  
ハ円丘又ハ前方後円ナリニ雄略天皇ノ御代柘敷葛  
城山ニテ雷ノ侵ハタリシカ為スカル死セシ後墓石ニ落雷  
シ碑文柱ヲ踰躐セシナリ是墓石トシテノ言見テ  
ル始ナリ其後ハ墓石ハ建シテ有シモ詳ナク又鍾舎ハ  
頼朝霸府ノ用キシカ頼朝ノ墓ノ五輪ハ現ニ同所ニ在リ  
テ右ナリ降テ北條高時滅テ前京ニハ波羅北條時益  
仲時等関東ニ走リシ寸守良親王ヲ要撃ニ會ヒ江州  
馬場驛ヲ戦没自盡セシモノハ石令人談五輪石塔

大小何百箇蓮華寺ノ裏山ニ墓在リ予カ裏庭  
ニモ五輪二個大宰府親世寺ノ戒壇院境内ヨリ先  
年掘出セルモノ多建置リ枕字平ヲ彫ルモ何人ナヤ  
詳ナク或ハ同寺大伽藍ノ故ヲ以テ僧侶ノモノナラハ以  
外諸國ニ散在スルモノ幾干ナラ知ラズ関東ニ多ク  
板碑トシ薄キ割石佛像戒名又ハ年月ヲ彫シタル  
モ動カラス吾古御古處山連華山村昂嘉穂郡中  
秋月家士ノ戦歿セシ蹟墓ハ多ク山石ノ無銘ナルカ多シ  
ニ遷葬トシ新屋野村ハ五輪ハ彼征西將軍官ノ建武前  
後ノ争擾ニ戦死セシシ將校ノモノナルカ多ク又平康

○天正庚辰  
○人  
○五輪石

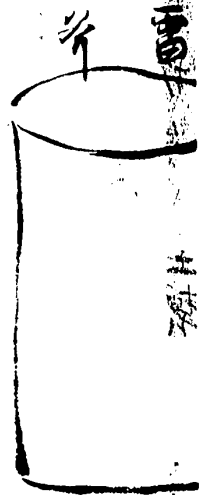
石ノ下ノ南ノ山ノ麓ニシテ

調査アル折ナハ甚急所ニ標示ノ木柱ヲ建設シテ年来  
毀損散乱セサル様法保護有テナリ以後調査ノ為  
巡回スル期々々々實地ニ若シ踏査セシムルヲ冀望スルモ  
ノナリカシ

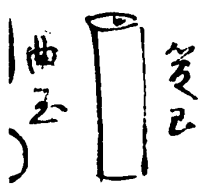
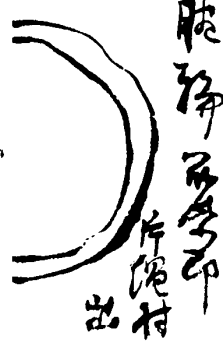
明治三十六年一月五日 主事 江藤石彦

谷部星野村  
村長 高木良一殿

夏



出所 出所 銅鉾 片





二月八日 日清新條約中  
 日新條約中  
 三月三日  
 三月三日  
 三月三日

又  
 上皇太后上地...  
 三月三日  
 三月三日  
 三月三日

一才一象  
 (盛京省) 鳳凰城、遼陽、新民屯、鉄嶺、通江子、  
 寧古塔、  
 (吉林省) 長春、(寬城子) 吉林、哈爾濱、寧古塔、  
 暉春、三性  
 (黑龍江省) 齊齊哈爾、海拉爾、愛琿、滿洲里、

● 福園寺  
 △ 神興下中  
 △ 大松  
 △ 調像  
 △ 風  
 △ 肥











此此なる留来物より出たる埴輪頭如也

名品  
昭和五年三月



此は地方に於て何處に於ても土偶埴輪として知られて居るものなり  
 其の形は古くは土偶埴輪の類に属するものなり  
 其の材料は土質の異なるものあり

○ 埴輪の形は古くは土偶埴輪の類に属するものなり  
 ○ 其の材料は土質の異なるものあり  
 ○ 其の形は古くは土偶埴輪の類に属するものなり  
 ○ 其の材料は土質の異なるものあり

盛花

○ 壬戌年正月廿日美口皇族コノノト殿下御内々行宮御代市  
 所より装飾宮内省御用達り花屋御進まり大樽心と盛花と  
 ○ 崇徳天皇仙傳和歌 如か不御侍り御新し  
 ○ 傳り鑄造に木像より彫刻とせし上知事殿心大開眼結末  
 所明徳天皇御用達り小十人鏡ヲ鑄ラ之ヲ誥伴依人御進上り  
 例祭の旨示せし氏神より心御進上り力今之ヲ思出上り





西暦一千九百二十年一月三日發行

古き付し 仲平 三寸五分 一

一 左境 本館蔵 一

法如の印ありし物に付し 仲平 三寸五分 一

一 天根 三寸五分 一

西暦一千九百二十年一月三日發行



一 寸五分 一 寸五分 一



一 寸五分 一 寸五分 一

○ 西暦一千九百二十年七月

十日

西暦

西暦一千九百二十年七月十日

又 仲平

本館蔵

三寸五分

一

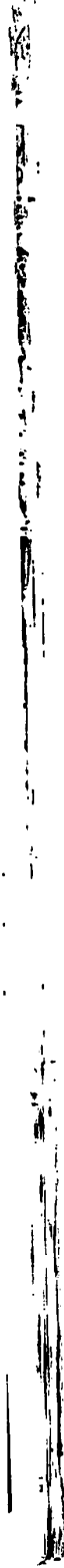
西暦一千九百二十年七月十日

西暦

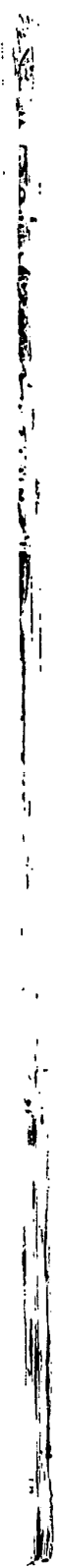
三寸五分

一



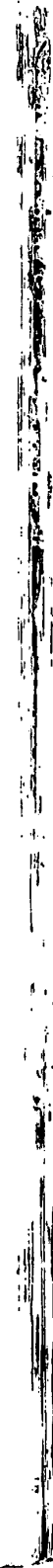


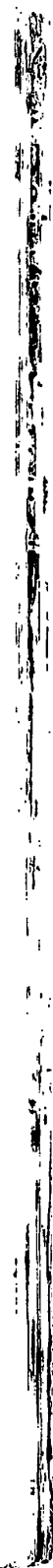










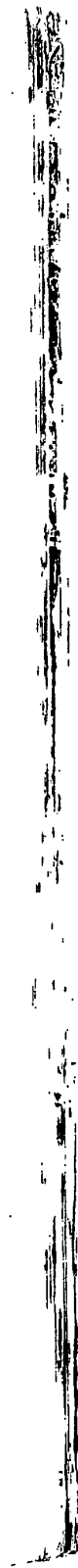


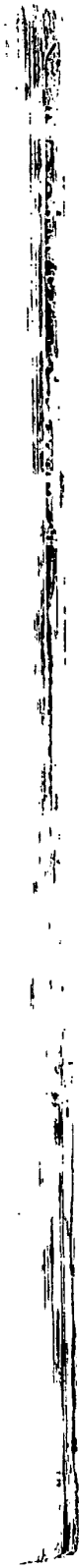


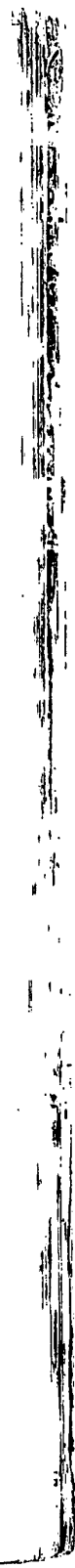












嘉祥十白大字  
 二才後日  
 明倫堂

本口平通空	同 操部	一刀	各兵半友	同 亦力子抄	大口	和国彦珍	奇品手抄
同 早	同 操部	同 元 作也小具	大字云林	同 三点	如 日	大標和国彦	老心入紙撰
同 杏	同 口元	同 口元	云林	同 永 亦力	同 上 亦力	力神功	
淳化元 絶縁	宋通	同 元 重空 亦力	貨多小	同 柜小 亦力	同 瑞		

同 行 日	同 義 日	至 道 潤 紙	同 道
祥符元	同 潤 紙	大字 祥符	明 道 適 勁
同 實	木 皇 宋 大	同 小	蟹 熙 寧
紹 聖 聖 寶	元 符 安 南	崇 寧 小 字	大 觀 孝 太
同 單 組	水 戶 元 豐 大 麻 種 茂	加 治 木 元 字 玉	大 字 大 祿 政 和
楷 書 政 和	同 木 政 和	同 中 木	同 雙 書
宣 和 元 孝 宗	建 炎 實	紹 興 元 度 穿	淳 熙 衆 水
同 孝 宗	淳 祐 少 宗 子	大 定 瘦 全 件 云	大 中 同 上
統 前 洪 武	同	加 治 水 洪 武 武 治	下 点 洪 武
永 永 樂	洪 治	同 旋 紙 大	同 小

極 平 通 曆	政 曆 万 曆	極 善 隆 武	云 兵 隆 武
岳 順 治 寶	順 治 工 聖 祖 下	隆 正 興 書	蟹 目 道 光
五 魚 康 庶 然	同 治 肖 堂 十	光 緒 庫 廣 平 和 錢	光 緒 皇 室 當 拾
大 和 通 寶 古 泉 本	光 順 子 光 順	平 安 潤 紙 大 字	明 命 同 上
光 中 肖 中 廟	順 亨 元 寶	安 法 寶	明 定 宋 宝
皇 皇 通 元 宝			
大 觀 元 年 通 行		了 收 行	大 統 元 年 通 行

九月丁未、多和喜、金所、活器物一紙記

彦亦子、初、入、は、は、積、宝、福、

之行、多、大、富、立、の、表、刀、鈔、大、小、凡、少、百、均、子、一、金、銀

赤銅象眼、取、鉄、製、等、梅、の、形、透、板、を、用、ひ、

裏、矢、根、敷、百、様、を、懸、り、上、差、し、大、石、股、を、敷、十、本、之

由、中、之、四、五、本、に、鍵、身、十、支、字、の、形、大、小、分、り、向、極、透

一、鑄、尾、板、を、用、ひ、

其、間、凡、六、身、を、用、ひ、獅子、拍、大、銅、を、靴、夫、靴、を、用、ひ、

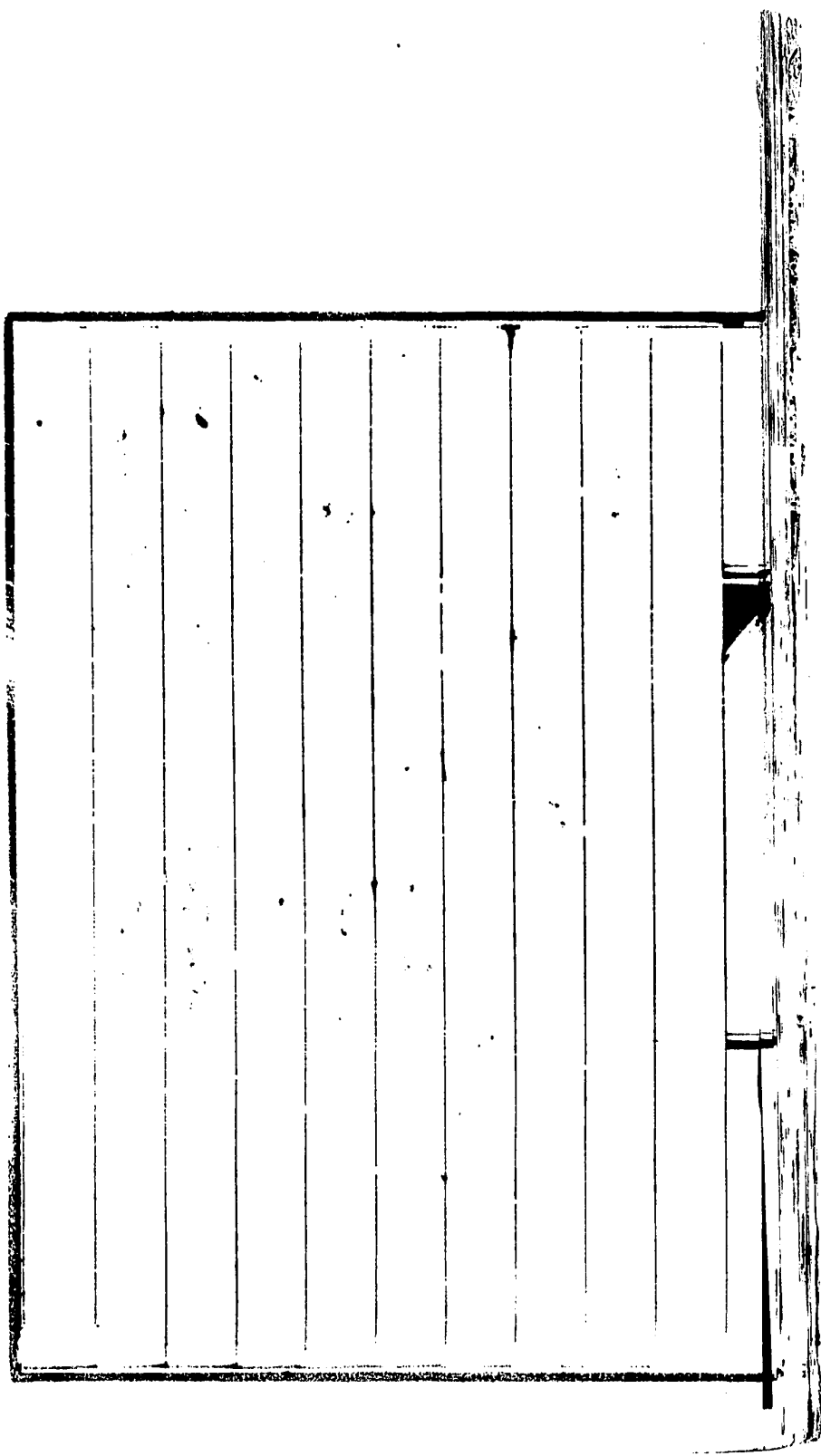
又、鬼、面、の、由、多、本、の、形、極、透、板、を、用、ひ、

又、鬼、面、の、由、多、本、の、形、極、透、板、を、用、ひ、









○ 田川郡後藤寺願尾外子藏り 聖宮の 願取の 物白木

石虎丁

大々如圖 它各二個 左右 兼用并出  
豊前國仲津郡花無村  
出上  
兼用

一寸

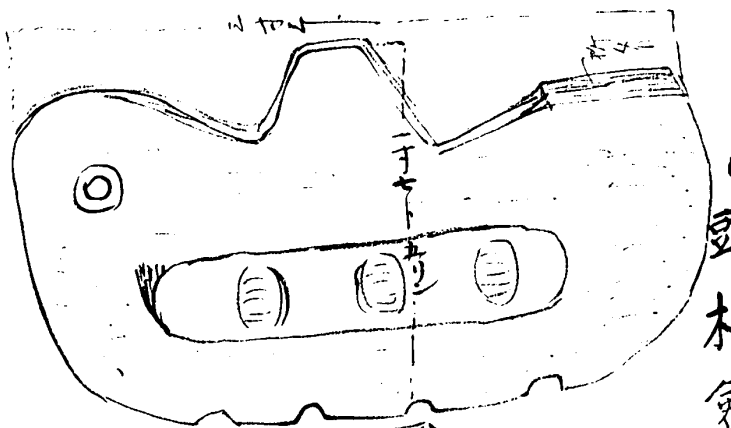
同右

重々其処平

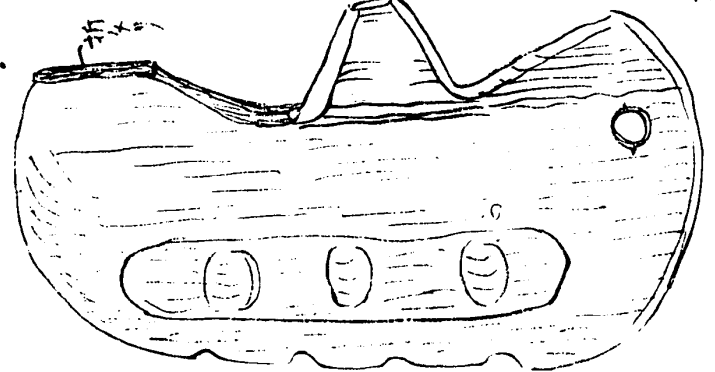
長四寸半

一四六五七

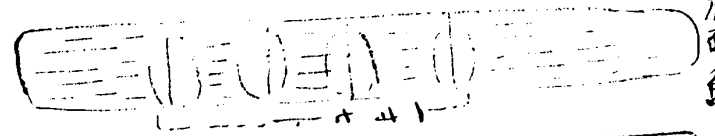
○頭椎劍



平面/白



底面/白



平面/白



出可

掛目廿九文



此劍係阿蘇國...  
 阿蘇國...  
 阿蘇國...  
 阿蘇國...

南朝文書寫社負阿蘇惟敷氏の所蔵不  
 阿蘇郡四王塚事任國曆國宣可秘妙者  
 名實此以某之以此

元弘三年十月... 式丁少猶

阿蘇大古目鑑

輕詠決新詠

當國阿蘇社夫古國社直申社領阿蘇庄四王塚事  
 右任承曆國宣可秘彼塚者以此

元弘三年十月四日 右衛門大尉坂上六右衛門

在仲承藤原朝... 阿蘇國...

字古集院

初編一

二十

字古土蔵友

豐後風大俗并筑至不下座那地路穰可令支配一族  
等者

至事以此為之以狀

元弘三年十月三日

右少弁 判

阿蘇大官目録

足利尊氏相連義以... 旨及至公之旨亦致其列也  
僅一族發白糧倉可致軍出者  
天章以此為之

阿蘇... 右少弁

阿蘇大官目録

當此世義皇下凶徒沒落... 右僅一族再墮摩國  
雖願也亦軍勢可致軍出者  
右僅以此為之以狀

元弘三年三月三日 右少弁

阿蘇大官目録

此後必限早回... 右友平代松尾跡同必守富江等地  
頭職若能速將成勳功賞可被右行者  
至事以此為之以狀

元弘三年六月廿日 右少弁 判

阿蘇大官目録

南之凶徒進討之攻亦近之起披露以度之合戰之  
 殺其地之軍車之且台度其討殺不請之朝敵合戰之次  
 亦頗以披群勇敵之至誠以亦殺威思合也亦恩賞者  
 但被申法之至言沙法之也  
 征西將軍言沙字余以依執盡如件

九月五日 勅諭依法古判

惠長小二府啟

凶徒可襲其 沙亦亦之也兼台法也亦可為強而之大  
 信之智初夜以合戰日前必下之 馳氣者蘇依以沒余去  
 頗亦不主言善存以法圖法可也早氣之也依

依執盡如件

十月四日 勅諭依法古判

惠長泥沒槍古啟

為對泥軍池本陳凶徒馳氣之合合者系合戰汝若再破  
 亦亦城之時軍忠之攻者珠而之威思合也且行依余身  
 豐亦槍古性雄也者

征西將軍言沙字余以依執盡如件

西平四年十月三日 勅諭依法古判

惠長泥沒槍古啟

發向日向玉言台危亦對泥軍池其為凶徒之也之開合

了此君之玉跡雲之感思之也古依  
將軍官作德意如件

正平五年四月十日 勅旨使以下 判

惠良筑波守殿

多年忠意之以才開念了而西之 獻威也諸亦形勢正  
日少利云々以此時分法下運籌策主  
言業山以爲之以此狀

正平七年九月十日 勅旨使以下 判

惠良筑波守殿

相家秘教軍忠之次方治色之強之強以鏡了云勇殿云

若貴顯以可謂授解勳功之貴事之致行殊貴之也先友  
彼信了夏漢法下國之智之故有競其 涉至而云々以  
秋法之 言結業多年之君是法言之誠之爲大功也古  
依

征西大將軍官作德意如件

正平三年九月廿九日 勅旨使以下 判

惠良筑波守殿

惟敷云正平三年九月惟澄申狀ハ既ニ塙保己一  
力群書類從ニ指テ夕レ正此令而ナケレハ末ヲ  
結了日能ハ不敷ニコフニ及フ

尾張國古圖辨誤 社實田島仲意の寄贈不保る由島氏ハ尾張國中島郡の人あり  
 好古集説初編一丁十九 尾張國古圖三河國猿投神社寶藏ヨリ出タリトノ一全梓澈ノ天井ヨリ出タル一ヲ先尊阿及ベリ然ルニ此圖ハ後人ノ偽作トテ尾張人ハトラズ殊ニ尾張國海東神根島村故津田西生ハ尾張地名考ヲ著シテ世ニ益アリ此男ナドハ大ニ破毀セリ此古圖中ニ大島ノ村名アリ古名ハ火上の里上トイフハナシ今ノ御名ハヤ、後ニテ千載已上ニ大島トイフハナシ 磯川親元ガ日記ニ尾張國大鷹郷大梅院被申安堵事云クト憑エテソノ頃スラ大鷹トカクリ大

高ハ後世ノコトナリ圖中津島日置トアレド方位モ組 津島モノナリ此圖カキシ頃ハ藤波ノ里ト云テ津島ノ号ナシコレモ大島ト同様ニテヒガ事ナリトテ先哲ハミナ眼ヲヒラキテ見ルコトナシ此圖ノイテシ天保年間ニハ尾張ヨリ學者達ガ猿投ニユキテ一閱シテハ仰天シテ歸リトルニ又是トノ、シリタリト聞及ベリ其餘村名ニモ子ト受取ニクキ丁マ、アリト仲道ハオモヘリトモカクモ偽圖ナリ大高おニハ火上姉子神社神名式ニアリマシマシテ前条ノコトシ津島村ノ古名藤波ノ里ハ即津島神社古記ニ云

奴世集誌 祇園

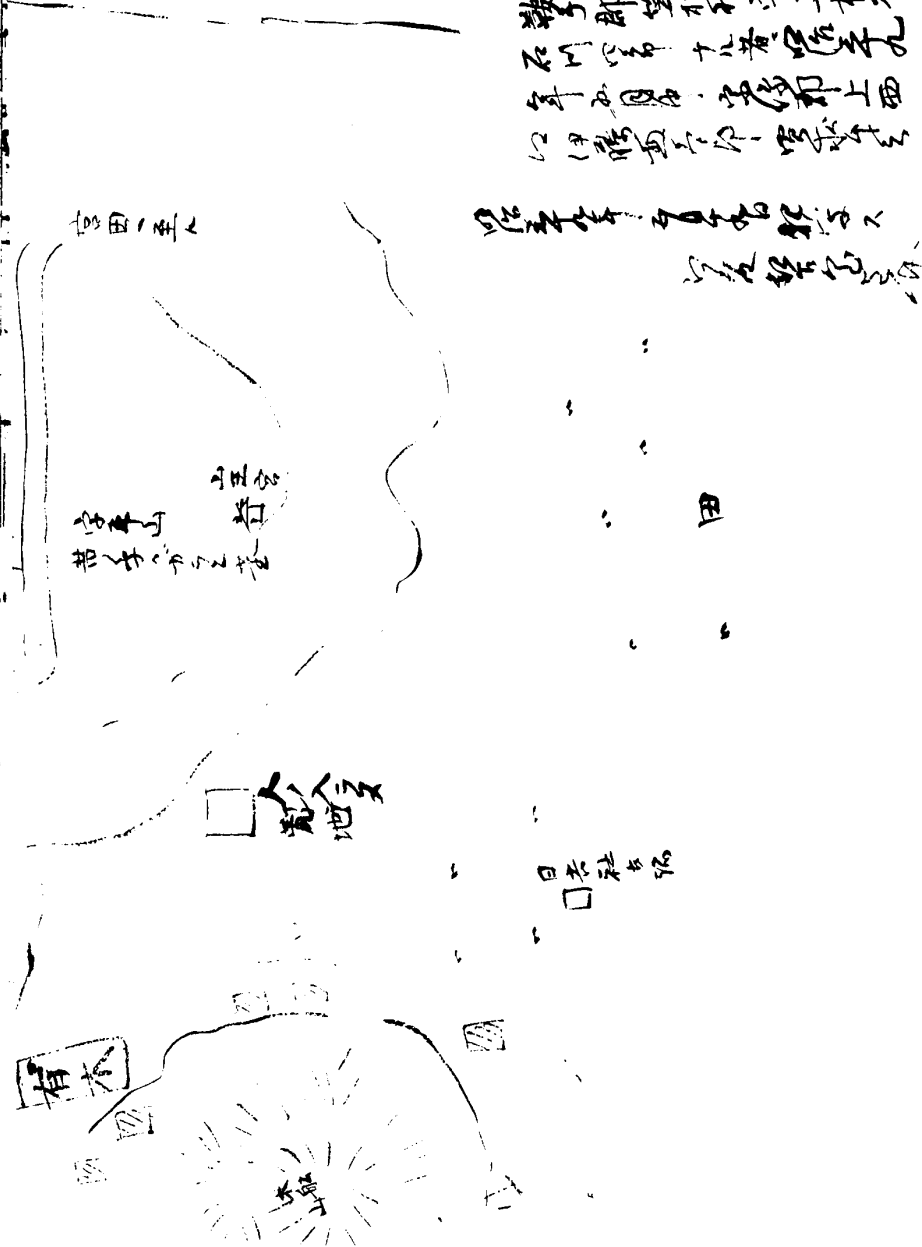
奴世祇園

エラ津島ハ後世ナリ津田正生云和名鈔尾張國海部  
 郡郷名津積志摩ノ二郷ヲトニ合セテ津島トノナニ  
 セシモノトオモフトイヒキ合モ津島神社ノマシ、  
 一廓ヲ向島トヨベリコレ志摩ノ名殘ナラムカ此右  
 圖ニツキテハ一朝一文筆ニ祀シガタシマヅ一ニテ奈  
 ノアヤマリテ申ノニ  
 佐々槻子の傳社本千秋の書  
 肥後國菊池郡本野村の人佐々次郎右衛門源政壽本  
 三百年の妻佐々槻子政壽の書又牛右衛門政次の  
 長女三百年の妻と云記有夫は

本 堀明治三年旧正月廿六  
 號子即坐行字上自末  
 石川宗十上着信子九  
 年九月廿一號即上西  
 口伊勢郡外一宮寺

此年九月廿一號即上西  
 口伊勢郡外一宮寺

本



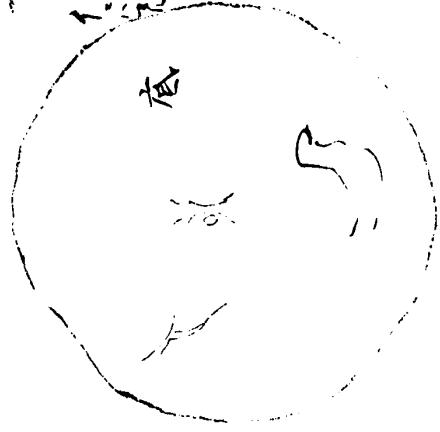
月也者陰郡

有連有木里  
法華經  
衆八卷  
生卷

十口口  
進會  
正書寫  
偏寫

二十花  
一四世作址

長字外

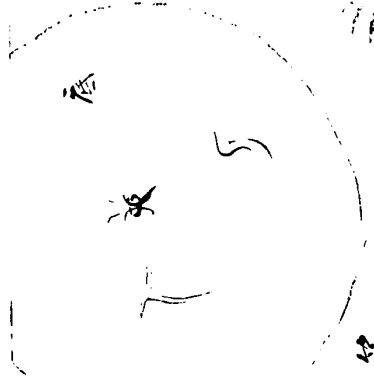


底

左奇圖

一四世作址

底小鏡  
圖并如



底

鏡

生如神社

表有鏡

來



子宮裏

迎

燈台

燈台

燈台

中右

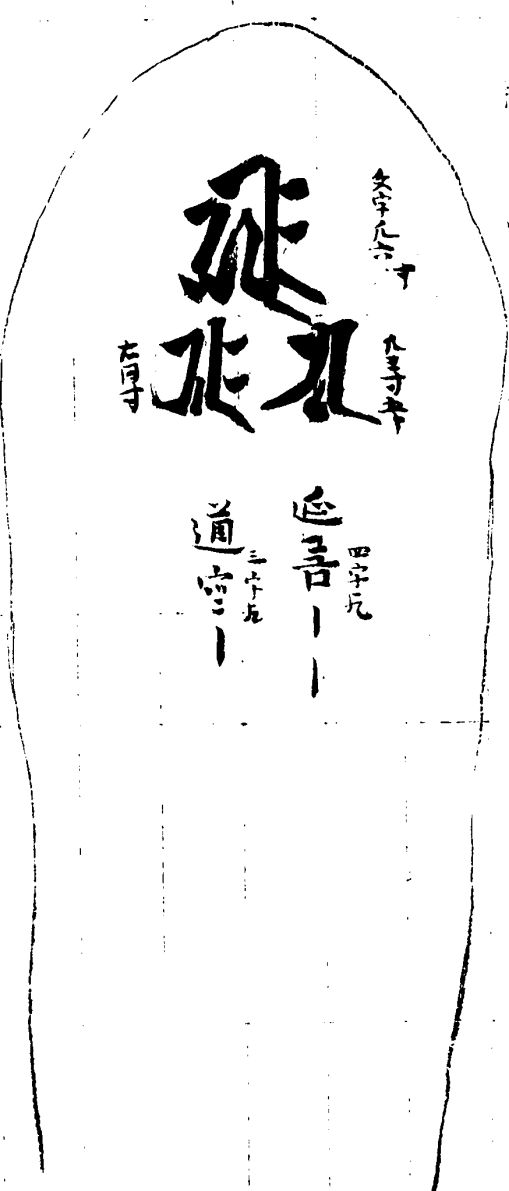
好世社  
日滿勝



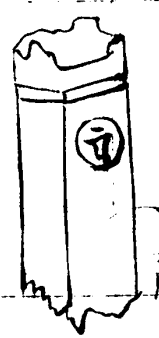




凡如以誦レタリ然レ氏素ヨリ御影石ノ堅剛ナルニモセヨ淺ク彫入タ分年  
 序ヲ經ルマノ漸次彫落甚々ノカラ確トハ見認ガタレ尚以石塔ハ熟考スレハ  
 其古時有タル法師尼ノ墳墓ニヤアラシキハ死字ヲ不誦ハ解レ得ガレモ斯ハ



考メタルリ其知レル入ニ訂サホシク兼ナン備又凡床下ニ三度年モ地下リ  
 テ平地アリ石塔塔ノ破砕セシガ數多重疊セリ悉ク取出シテ檢セシニ



眞解  
 又ハ  
 道水

破片凡十五個外ニ塔塔ノ碎ケタムモノ十個モアラシキ按ニ傳多モ古  
 利時代ノ屢ノ兵乱ニテ祝融ノ災ニ羅リシ地ナレハ此ノ限ニ散乱セル古  
 墳墓ヲ採集シテ此梵字アル積大成石塔ノ下ニ蒐集後ニ前方ニ地藏  
 ヲ彫レル石塔ヲモ安置シ供養ナトセシモノナレ石塔ニ宝滿流ノ山伏  
 國中奉入時此處ニ来リテ經ヲ讀ム上モ因アルナリ右ハ實地檢査未





道  
道

道  
三折

道  
四折









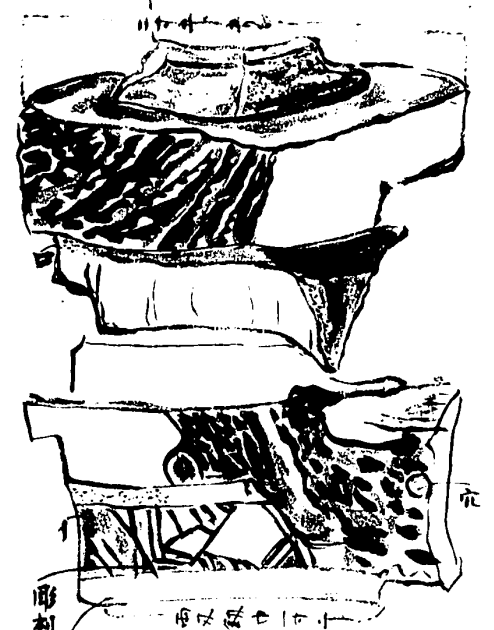


霧山上の凡百の山

糸嶋郡雷山村  
字高上古墳  
之圖



鹿角製  
角ノ根元ヲ  
作ル  
諸刃太刀  
ノ野ナリ



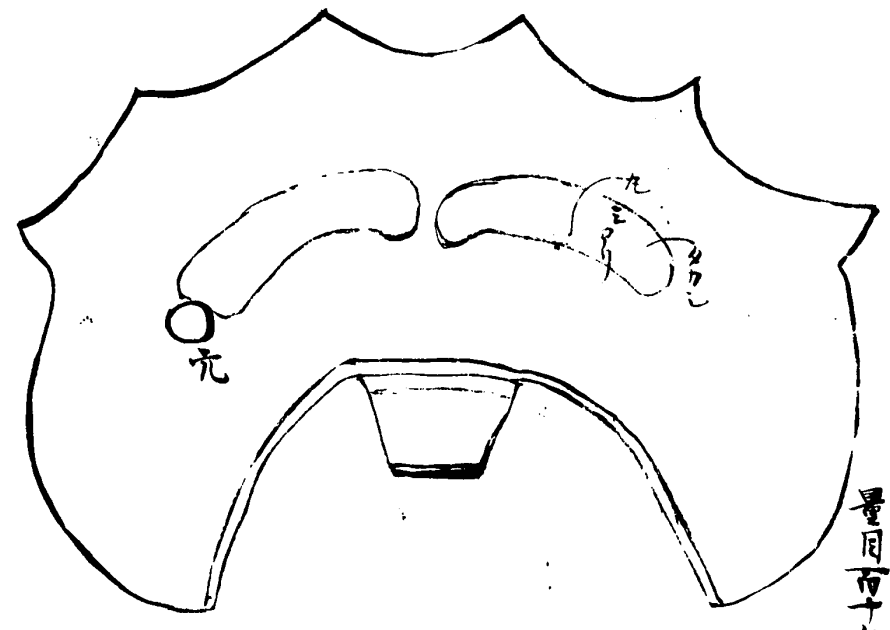
彫刺縁  
此方柄頂

アイヌ人ト有  
ヲホロエト  
改ムベシ

此古墳委掘物ヲ考ルニ上代アイヌ人此内地ニ住居シ甚チク病夫  
ハ取テモセシヲ埋葬セトモノ事ナシ也 亦初ルニ方邊ヨシク知テハ中  
上ニ跡如ク有シトモハ死骸全葬ノ寸 被ノ蓋下ニ二匹骨アリ又蓋  
上ニ別カクカト推測セラル 但西ノ劍五振片及 殖ニ振ハ今ノ  
下キリ細工ニ利也ナリ 但西ノ劍五振片及 殖ニ振ハ今ノ  
ハ近國ニ委掘スモト遠クナシ然レハアイヌ人ト能内地ニ居也  
頃ノ内地ノ利器ノ用スルニ相違也先年 北極若林勝柳ノ  
九州巡廻ノ折肥古國八代郡古地村ヨリ出スル陶器ニ上代アイヌ  
陶器ヲ得タルアイヌノ産物也 見仰ルニ上代アイヌノ  
上代アイヌノ痕跡也 上代ノ多クアイヌノ九國モ産物ニ生  
也 神祇ノ人達ニ追退ラ草束圓ヲ今ノ蝦夷地ニ移リシ  
國史ノ上ニ祭物等 幸ニ諸賢市贊同ナルヲ知テ 茲ニ  
品ノ最稀ナルハ如何ニ故ヤ尚ホ教ヲ得ハ幸甚ハ一六賢  
明治二十九年六月四日 會員 江藤 彦 謹識

清石製  
石釵頭 大廿如圖

石釵頭  
側面  
完全ナ  
ルヲ以テ  
石指アリ



量月百十文



福岡縣筑前國朝倉郡甘木町千五百六拾七番地

玉詠屑所

懇請者

七十歲

篠田定明

全縣全國全郡秋月町四ッ小路

全上

贊成者

八十五歲

井上一岳

全縣全國福岡市簀子町

全上

全上

正七位

江藤正澄

全縣全國全市通丁

全上

全上

八雲會

明治三十八年一月

配膳私記

子裕  
宮内

全

口  
井上  
江藤





海軍一

(海軍の歴史)

海軍の歴史は、国家の発展と共に歩んで来た。その歴史は、戦国時代から明治維新まで、そして大正、昭和と続く。海軍は、国家の防衛と発展に重要な役割を果たしてきた。その歴史は、戦国時代から明治維新まで、そして大正、昭和と続く。海軍は、国家の防衛と発展に重要な役割を果たしてきた。

海軍の歴史は、戦国時代から明治維新まで、そして大正、昭和と続く。海軍は、国家の防衛と発展に重要な役割を果たしてきた。その歴史は、戦国時代から明治維新まで、そして大正、昭和と続く。海軍は、国家の防衛と発展に重要な役割を果たしてきた。その歴史は、戦国時代から明治維新まで、そして大正、昭和と続く。海軍は、国家の防衛と発展に重要な役割を果たしてきた。

海軍の歴史

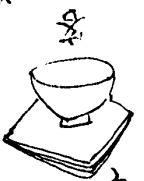
海軍の歴史は、戦国時代から明治維新まで、そして大正、昭和と続く。海軍は、国家の防衛と発展に重要な役割を果たしてきた。その歴史は、戦国時代から明治維新まで、そして大正、昭和と続く。海軍は、国家の防衛と発展に重要な役割を果たしてきた。その歴史は、戦国時代から明治維新まで、そして大正、昭和と続く。海軍は、国家の防衛と発展に重要な役割を果たしてきた。







のみ平しと書くとあるは結句と云ふは  
あるは結句と云ふは  
あるは結句と云ふは



あるは結句と云ふは  
あるは結句と云ふは

あるは結句と云ふは

あるは結句と云ふは  
あるは結句と云ふは  
あるは結句と云ふは  
あるは結句と云ふは  
あるは結句と云ふは

あるは結句と云ふは

あるは結句と云ふは

あるは結句と云ふは  
あるは結句と云ふは

あるは結句と云ふは

あるは結句と云ふは  
あるは結句と云ふは  
あるは結句と云ふは

あるは結句と云ふは

あるは結句と云ふは  
あるは結句と云ふは  
あるは結句と云ふは

あるは結句と云ふは  
あるは結句と云ふは  
あるは結句と云ふは  
あるは結句と云ふは





















